

懐徳堂 News Letter

懐徳堂研究センターの業務

1. 懐徳堂に関わる調査・研究、資料の収集・作成（デジタルコンテンツを含む）
2. 『懐徳堂研究』（年1回定期）、パンフレット、ニュースレター（不定期）等の広報媒体の編集・刊行
3. 懐徳堂研究の総合サイト「WEB懐徳堂（<http://kaitokudo.jp/>）」の管理運営
4. 学内外における懐徳堂資料の展示、講演会などの開催
5. 懐徳堂記念会の事業に関わる資料調査等の協力
6. 本学附属図書館および総合学術博物館の業務に関わる懐徳堂関係資料の調査等の協力

今後の事業

懐徳堂研究センターでは、現在、「懐徳堂画像データベース」を作成中です。懐徳堂文庫には、書籍や器物を中心に約5万点の資料が収蔵されていますが、その写真や関連画像は各所に散在しているというのが現状です。そこで、それらの画像を集約し、公開しようという試みです。

懐徳堂研究はもとより、社会史、経済史、美術史など様々な分野においても、本データベースが広く活用されることを願っています。

懐徳堂研究センターQ & A

Q 「懐徳堂文庫」所蔵の貴重資料を閲覧するにはどうしたらよいですか？

A 懐徳堂に関する貴重資料は、一部を除き、大阪大学附属図書館に配置・集中管理されています。閲覧等の手続きについては、附属図書館利用支援課（〒560-0043大阪府豊中市待兼山町1番4号、06-6850-5069〈FAX〉）へお問い合わせ下さい。

Q 懐徳堂に関する画像を借用したり、図書に掲載するにはどうしたらよいですか？

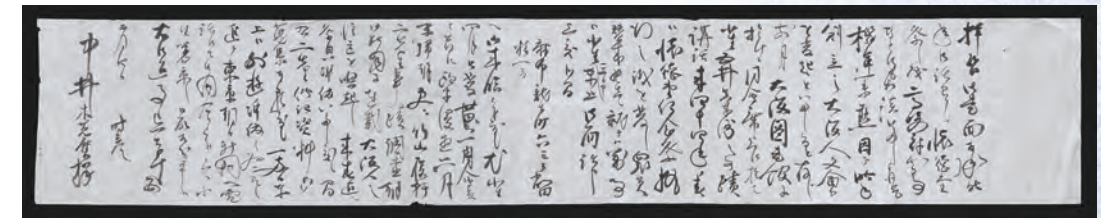
A 所蔵元によって申請方法が異なります。詳しくは、懐徳堂研究センターHPをご覧ください。

Q 旧懐徳堂センターの『懐徳堂センター報』や懐徳堂研究センターの『懐徳堂研究』のバックナンバーを見るにはどうしたらよいですか？

A 平成23年度より、順次バックナンバーを懐徳堂研究センターHPで掲載し、ダウンロードできるようになっています。

※その他、詳細は懐徳堂研究センターHPをご覧ください。

デジタルコンテンツ「西村天囚書簡」

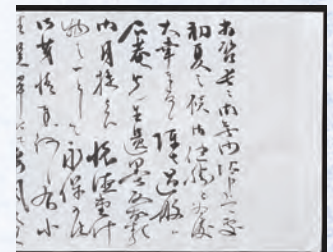


平成20年(2008)、中井家の菩提寺である誓願寺(大阪市中央区上本町)より、27通の書簡が大阪大学に寄贈されました。西村天囚が中井木菟麻呂に宛てた書簡群で、その多くは明治43年(1910)から翌年にかけてのものです。

西村天囚と中井木菟麻呂は、明治2年(1869)に閉校となった懐徳堂の復興に尽力した人物で、彼らの運動により、後に懐徳堂記念会が創設され、新学舎「重建懐徳堂」が創建されました。これらの書簡は、ちょうど懐徳堂記念会の設立時に重なり、その内容もまさしく懐徳堂記念会に関わることでした。

そこで、平成24年度からの新事業として、デジタルコンテンツ「西村天囚書簡」の制作に着手しました。

本コンテンツは、大阪大学懐徳堂研究センターと財団法人懐徳堂記念会の共同研究の成果として公開するもので、書簡の画像とともに、翻刻文や解説を参照することができます。本コンテンツを通して、懐徳堂記念会設立前後の息吹きを感じていただければ幸いです。



西村天囚と中井木菟麻呂

幕末維新の動乱の中、明治2年(1869)に懐徳堂はその140余年の歴史に幕を下ろします。そして懐徳堂の閉校から40年、急速な西欧近代化によって日本人は物質的な豊かさを手に入れ、それと引きかえに、みずからの精神的支柱を見失っていきました。こうした中で、かつて大阪の精神文化を支えていた懐徳堂に再び注目が集まり、にわかに懐徳堂復興の機運が高まりをみせます。その中心的役割を担ったのが、西村天囚と中井木菟麻呂です。

大阪朝日新聞の記者であった西村天囚は、紙上に「懐徳堂研究」を連載し、懐徳堂の顕彰に務めました。また、中井竹山・履軒の曾孫にあたる中井木菟麻呂は、保管していた中井家伝来の膨大な資料を提供し、この復興運動を陰で支えていきます。彼らの運動は、やがて大阪の政財言論界をも動かす大きなうねりとなり、懐徳堂記念会の創設や学舎の再建となって結実するのです。



西村天囚



中井木菟麻呂

DIGITAL CONTENTS

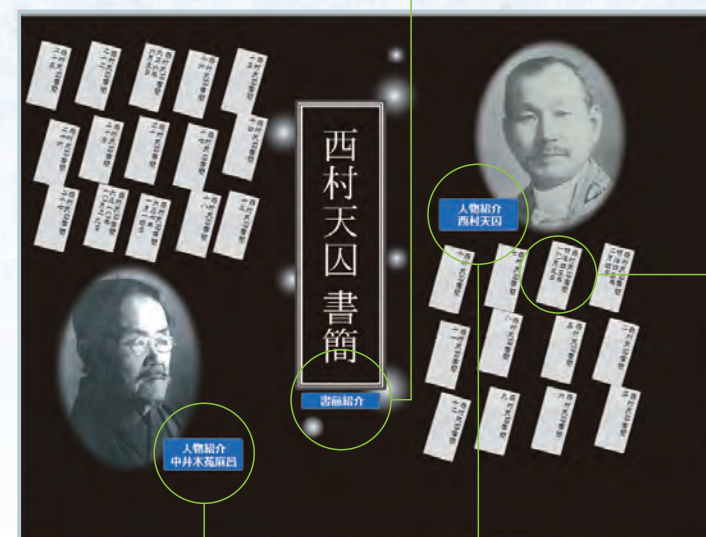
デジタルコンテンツ紹介 WEB懐徳堂(<http://kaitokudo.jp/>)

デジタルコンテンツ「西村天囚書簡」

このコンテンツは、次のような機能を備えています。

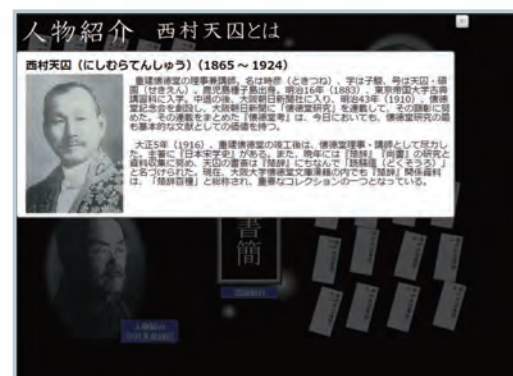
- ①西村天囚書簡全27通の画像を閲覧することができます。
- ②これらの書簡について、その時代背景を知ることができます。
- ③書簡の発信者「西村天囚」と受信者「中井木菟麻呂」に関する情報が分かります。
- ④各書簡の画像には文番号が付されており、その文番号をクリックするとそれに対応する翻刻・注釈を閲覧できます(翻刻と注釈は年次進行で作成していきます)。
- ⑤書簡の画像は「全体」と「部分」を常に表示でき、今どこを閲覧しているのかが明確に把握できます。
- ⑥画像・翻刻・注釈は、文ごとの表示と、全体の一括表示とがあり、閲覧の目的によって使い分けることができます。

TOPページ



書簡について、その時代・背景を紹介します。

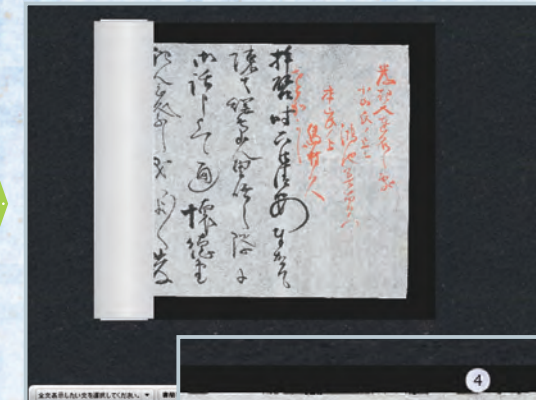
それぞれの人物を紹介します。



手紙にマウスを当てると概要説明が表示されます。

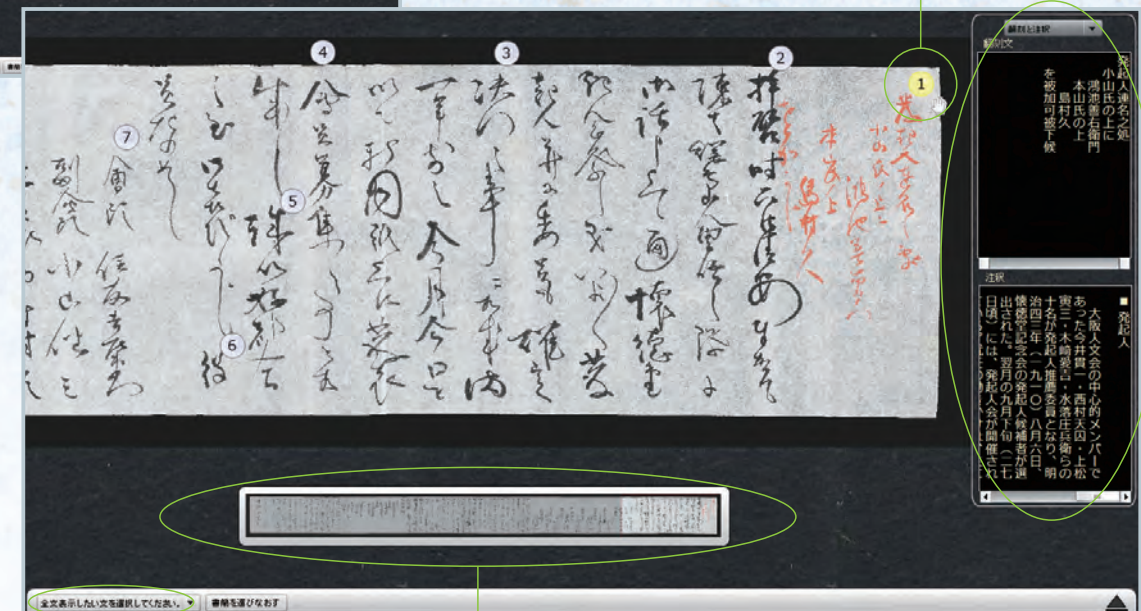


書簡の閲覧

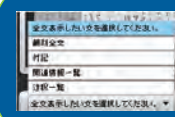


閲覧したい書簡をクリックすると、手紙がアニメーションによって開きます。

手紙本文に付記された番号をクリックすると、翻刻と注釈が表示されます。

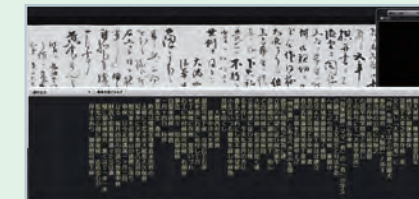


手紙の全体と表示している部分を確認しながら、自由に動かすことができます。



項目を選択すると全文を表示できます。

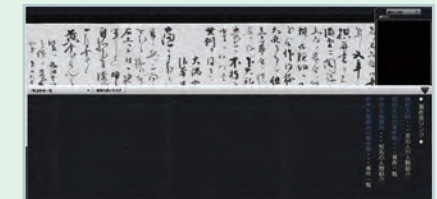
翻刻全文



付記



関連情報一覧



注釈一覧



※本コンテンツは、大阪大学文学研究科懐徳堂研究センターと懐徳堂記念会の共同研究の成果として公開するものです。
翻刻や解説などについてお気づきの点がございましたら、懐徳堂研究センターまでお問い合わせ下さい。